

科目名	家庭基礎	家庭科 必修 1年次・2単位
目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを旨とする。	
位置づけ	家庭科としては最後の必修科目。生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解と技能を身に付け、課題を解決するための力を養い、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。	

■使用する教材

- ・教科書「家庭基礎 自立・共生・創造」（東京書籍出版）
- ・資料集「2025 オールガイド食品成分表」（実教出版）
- ・自作プリント

■学習する単元とおおよその時期（★マークは単元テストがあります。）

- ★家族・社会との共生【4～5月】 ★衣生活をつくる【5～7月】
- ★子どもと共に育つ・超高齢社会を共に生きる【7・8月】
- ★食生活をつくる【9～12月】
- ・住生活をつくる【1月】
- ・消費者・共に生きる【2～3月】

■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法

授業形態は一斉とグループ学習。自分自身の生活と関連づけ、身の回りで困っていること、改善したいことなどを挙げ、解決のための計画・実践が家庭科の学習を発展させていきます。他者と協働する姿勢も大切。実習中は安全面に留意し、協力して能率良く作業を進める。家庭生活と社会の関わりを理解するため、新聞・ニュースに関心を持って下さい。毎回の授業を大切にし、提出物を確実に行うこと。

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 人間の生涯にかかわる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
	B 人間の生涯にかかわる発達と生活の営みを捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解し、生活を営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それに係わる技能をある程度身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力をある程度身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組もうとしたり、振り返って改善しようとしたりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造しようとしている。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	単元テスト、課題の提出内容 被服製作作品・調理実習	課題の提出内容 授業中の発言内容 調理実習、被服実習	授業中の参加態度 課題の提出状況 調理実習 被服実習

